

～仮想通貨の未来～

開催日：2018年7月1日（月）

講師：米澤 遼

肩書：一般社団法人日本仮想通貨総合研究所 代表理事

1. 直近の仮想通貨 Highlight

≪5/30≫

中国が Bitcoin の規制を改善するコメントを発表。

仮想通貨が世界全体で受け入れられつつある。

≪5/31≫

仮想通貨ユーザーから誕生した「億り人」は 300 人超。

人物像は「都内 IT 企業勤務のネット好きな 30 代男性」。

≪6/19≫

韓国の大手仮想通貨交換所ビッサムは、約 350 億ウォン（約 34 億 6 千万円）規模の仮想通貨の盗難にあった。

仮想通貨自体はブロックチェーンでセキュリティーが高いが、管理ソフトがまだまだセキュリティーが甘い。

≪6/25≫

参議院予算委員会にて麻生大臣が、20%の分離課税については、給与や事業所得などの大金を稼いだ方は、最大で 55%ほどの税金が掛かるとした。その一方で、「仮想通貨の投資利益は 20%の税率で良い」というのは、国民の理解が得られず、世間で通用しない。

当面、税率が変わることはないであろう。

2. 2017 年以降の動向

価格の高騰が一番の注目の原因

5 万投資で 1 億円を超えてしまう。最低でも 10 倍以上価格が上昇している。

規制により値下がりしているがナスダックの価格チャートと比較して今後また上がるだろうと考えられる。

3. 2018 年度仮想通貨の全貌

- ・仮想通貨は USD、EUR、JPY、KRW で支えられている。

- ・多くの仮想通貨がある中、日本人はほぼビットコインしか買ってない。
- ・仮想通貨全体としてはビットコインによって成り立っている。
- ・膨大な通貨があり、すべての通貨を把握することは現状では不可能。
- ・ICO のツイッターやフェイスブックなどの広告はすべて禁止となった。
- ・2017 年度末時点でビットコインは全世界で 6 位の流通量があり、多くの法定通貨に勝る流通量を誇っている。
- ・使い勝手はまだ悪いが、既成事実としてすでに世界に認められてしまったといえる。

4.歴史

- ・1971 年ニクソンショック

アメリカはベトナム戦争による財政赤字から、金保有量以上のドルを発行した。



- ・2009 年インターネットと仮想通貨の登場

信頼により成り立つドルへの不信感を抱いた人がインターネット上の一部のコミュニティーの信頼だけで成り立つ通貨 **Bitcoin** がつくられた。

ブロックチェーンならば政府よりも不正が少ない。

《ポイント》

- ・仮想通貨のブームは IT 革命の一部と考えるのが妥当である。
- ・多くの仮想通貨があるのは、**Bitcoin** の生みの親であるサイファーパンクがコードを無料で世界中に公開しているためである。
- ・**Bitcoin** のブロックチェーンは政府より高いセキュリティーでしかも労働がいらぬ。ここから仕事が機械に代わる動きが見えてきている。
- ・取引の積み上げで今の信頼を勝ち得た。

5.実践的知識

- ・新しいビジネスモデルとしてネットで仮想通貨を発行する。簡単にできる。
1 枚 1 円の値が付けば、1 億枚発行すれば一億の資産となるが、問題としてはユーザーの確保に尽力しなければならない。
- ・トレーディングするのであればネットや新聞、秘密度が高い SNS で情報収集するとそこまで投資は難しくない
- ・今後伸びる余地は十分にある
- ・マイニング事業
仮想通貨の新規取引の大量のデータを解析し、有益な情報を抽出することでブロックチェーンを作成すること。計算資源を提供したものに報酬としてその通貨が与えられる。

6.投資アドバイス（5年間での実体験に基づくアドバイス）

- ①余剰資金で取り組む
- ②底値を探す
- ③価格上昇で話題になったタイミングでは買わない
- ④値上がり前の情報に敏感になること
- ⑤数をこなして確率で勝つ
- ⑥細かいテクニカル分析ではなく、ドルコスト平均法など負けない投資方法をしっかり勉強する
- ⑦仮想通貨以外にも投資する
- ⑧完全に必要なくなるまで労働収入は捨てない

《長期》

安いときに買い、安全なウォレットに保存または貸し出して利率を回収

《中期》

値下がり時を見極めて買い、適度な値上がりで売却

《短期》

価格が動いたらすぐに取引所にログイン

値下がり値上がり時の指値注文を事前に大量に出す

※他にもアービトラージという方法もある。

取引所ごとの価格の差を利用して売り買いし、利益を出すこと

※自分で仮想通貨を発行し管理する場合

日本の仮想通貨発行は申請が100件以上の承認待ちでパンクしている。

海外で法人を設立してやる方が現実的である。

質疑応答

Q：ブロックチェーンとは何なのか。

A：ブロックとは A さんから B さんに送金したという取引情報複数をまとめたもの。取引ごとに ID が振られており、この ID の羅列をマイニングしている方たちに解析されることによってブロックが作られる。ブロックは分散してみんなに管理されている。このブロックを鎖のようにつなげていくことからブロックチェーンと呼ばれている。ブロックは誰でも見ることができる。

一部のブロックを改ざんしても他のオリジナルのブロックからまたチェーンしてブロックが作られるため、改ざんしたブロックの進みが遅く、削除されることから改ざんは不可能となっている。

Q：投資は自己責任だが、何かいい方法はありませんか。

A：海外の取引所がいい。海外の方が多くの通貨を扱っており、注目度の高い通貨を購入し、放置するだけで儲かる。

通貨には法定通貨とビットコインとアルトコインがある。アルトコインとはビットコインから派生した通貨でビットコインの動きとほぼシンクロしている。

流通量が現在は法定通貨に集まっているが、いずれはビットコインに流れる。

アルトコインへはビットコインから流れるので、法定通貨からビットコインに流れるとすぐにアルトコインは何十～男百倍もの値上がりが起こる。

価値の低いアルトコインで上がりそうなものを調べておき、ビットコインに通貨が流れたときに買うことで儲けることができる。

現在は日銀が日本円をコントロールしているが、今後はコンピュータがとって変わるだろう。

Q：ブロックチェーンはどんな使い道がありますか。

A：ブロックチェーンは分散管理です。

例えば A さんがセカンドオピニオンで B 病院内でしか持ちえない情報を C 病院にそのまま渡したりすることができ、C 病院でまた検査するなど二度手間がなくなる。

他にはスマートコントラクトがある。

アーティストの音楽が我々の手に届くには多くの仲介業者が入っており、アーティストにわたる印税はほんの一部であるが、ブロックチェーンを使用することにより、仲介業者が要らなくなり、仲介手数料がなくなり、その分値段が安くなる。

Q：現在ビットコインをすぐ買えないがどうすればいいのか。

A：日本円でしか取引しないのであれば取引所に従うほかない。

海外の取引所を使えば比較的早く購入できる可能性がある。ウォレット内にドル等をもって置き、必要な時にビットコインに変えるなどがよい。

Q：相対取引が流行っているが、違法ではないのか。

A：相対取引とは2者間のみ取引のことで、本来であれば領収書を出す等、第三者に対して証拠となるものを残さなければならないが、お互いに証拠を消し、取引がなかったことにするということが流行っている。

これは確かに違法だが、税務署でもマンパワーの問題や疑わしい人を調査してもすでに証拠を消されていて対処のしようがない場合が多い。

現実的に規制できていない。